6月の定例教育委員会のお知らせ

◆日時／6月14日㈭　13時30分～　◆場所／第2委員会室（自由に傍聴できます）
◆問い合わせ／教育委員会 教育振興課　☎75−8022

教育

◆「義務教育学校」で「自己肯定感」を育む

多久市の「義務教育学校」がスタートして2年目を迎えました。今年度も「恕の心」と「生きぬく力」を兼ね備えた未来を担う「多久市民」の育成を目標に、21世紀型スキルの習得を目指す授業実践、そして「1人も見捨てない」という理念のもと『学び合い』を展開し、一人ひとりの子どもたちが「自己肯定感」に満ちた学校生活を送ることができるよう努めていきます。

各学校では、この「自己肯定感」を育むことを基軸として、豊かな心と夢を持ち続けることができるよう「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた教育活動を展開していきます。

例えば、学力向上を一番の旗印にして、9年間の連続性を生かした、地域を誇りに思い互いを認め合う心、情報化の進展に対応できる能力、成長を意識し、自己の健康を見つめる態度などの育成、地域とともにある学校づくり、開かれた教育課程を目指し取り組んでいるコミュニティ・スクールの推進などがあげられます。

これからも多久市では、ふるさと「多久」を愛し「志」を果たしていくことができる、子どもたちの未来を創りあげることができればと思います。

▲植物を育てることは「自己肯定感」を育む。芽がでるように思いを込めて。（3年生の理科学習「ヒマワリとホウセンカの種まき」）

問い合わせ　学校教育課 学務指導係　☎75−2227

教育

今月の論語

義を見て為ざるは
勇なきなり

正しいことをしなくてはならない時、引っ込んでしまうことはひきょう者である。

今月の帰宅放送は、東原庠舎西渓校9年　坪上　愛加さん（多久町）です

教育長コラム

ちょっといい話

「愛情と栄養と」

教諭の頃「朝食を食べさせない親は、我が子の成績に口出しする権利は無い」と保護者に言っていた。

校長になって、朝食が〝お菓子のうまい棒〟という子がいて憂慮した。そこで、遠足の時、保護者にあらかじめ〝朝食を摂っていない子と、お弁当を持参していない子は遠足に連れて行けない〟と周知した。朝の学級調査の後「朝食は全員摂ってきました」、しかし「弁当忘れが二人いて、姉妹です」の連絡。担任は母親に電話連絡、すると父親がコンビニおにぎりを2個ずつ持参し何とか出発に間に合った。なんと、その姉妹はうまい棒が朝食の子だった。

多久市の朝食喫食率は72～89％（29年調）。

「食べておいでね、子どもたち」。

教育長　田原　優子

市民文芸

短歌《麦の芽短歌会 互選》

◆減反の　田畑は荒野に　変わり果て
老農佇む　田植の季なり
木村　則子

◆木漏れ日の　光と風の爽やかさ
介護の疲れ　癒やされてゆく
梶原恵美子

◆恙なく　傘寿を迎え　共々に
今の倖せ　かみしめており
福島那智子

◆差し伸べた　その手の汗が　愛なんだ
受け止めた　その　涙も愛だ
野崎　隆幸

◆廃棄する　息のプレゼント　自転車は
勤め持つ吾を　助けくれたる
浦野　嘉恵

俳句《互選》

◆嬰児の　一歩踏み出す　春の土
中嶋　清子

◆新緑に　深呼吸して　畑仕事
武富　律子

◆春の海　地球の鼓動　打つごとし
倉成　皓二

◆せせらぎの　誘ひに歩む　花茨
富樫　明美

◆思春期の　甦り来る　宵の春

川柳《多久市川柳会 互選》

◆鯉幟　広い未来と　青い空
西山　残月

◆もやもやを　さっと消し去る　青い空
大谷　和

◆深海魚　空の青さを　知らぬまま
井上　東子

◆新聞も　明日になれば　新聞紙
田中　正春

◆六十代　高齢者とは　云わせない
眞名子純子